

# 災害廃棄物 総量見直しはどのように行われたか

---

大田区・生活者ネットワーク  
区議会議員 奈須りえ

---

# 災害廃棄物（当初）

- 災害廃棄物全量(コンクリートや金属も含む)

岩手県 476万トン⇒11年

宮城県 1,569万トン⇒19年

2,045万トン



(他福島県205万トン) 排出される一般廃棄物量で何年分

※環境省「災害廃棄物の広域処理」平成23年11月2日

## 災害廃棄物（見直し後）

- 災害廃棄物全量(コンクリートや金属も含む)

岩手県 476→ 525万トン

宮城県 1,569→1,154万トン

2,045→1,679万トン

**361万t減**

# 災害廃棄物に占める広域処理の割合

## ■ 災害廃棄物全量(コンクリートや金属も含む)

岩手県 476万t ⇒ **57** ⇒ **120** ⇒ **\*31万t**

宮城県 1,569万t ⇒ **344** ⇒ **127万t**

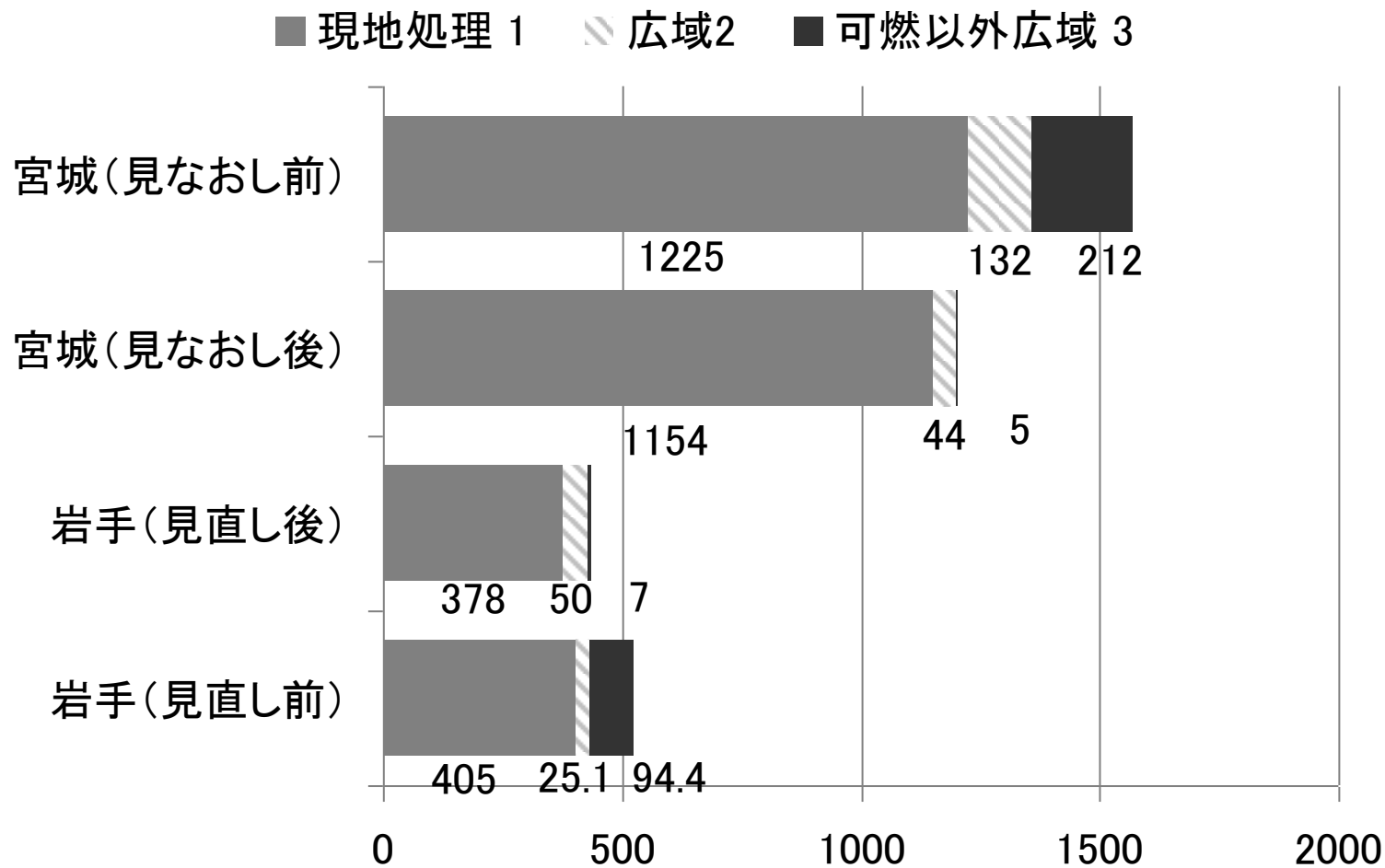
2,045万t ⇒ **401** ⇒ **158万t**

\* 120万tのうち89万tは土砂で広域に不適と知事が発言

1,679万トン ⇒ **158万t** **9.4%**

※環境省「災害廃棄物の広域処理」

# 見なおし前と見直し後の広域処理量変化



# 宮城県受託分見直し後処理量

◆ 5/29宮城県震災廃棄物対策課ヒアリング後修正分				瓦礫総量(万トン)			県内処理計画量(万トン)			広域処理希望量(万トン)		
				見直し前	見直し後	見直し量	見直し前	見直し後	見直し量	見直し前	見直し後	見直し量
	宮城県	再生利用		592.8	385.6	207.2	490.2	331.5	158.7	102.6	54.1	48.5
		焼却処理		295.5	<b>203.4</b>	92.1	170.7	<b>175.5</b>	-4.8	124.8	<b>27.9</b>	96.9
		売却		68.7	46	22.7	68.7	46	22.7	0	0	0
		最終処分		132.1	77.9		56.1	38.7	17.4	76	39.2	36.8
		小計		1089.1	712.9	322	785.7	591.7	194	303.4	121.2	182.2
<p>参考資料：災害廃棄物処理対象量の見直しについて(県受託分) 3p (b)処理方法別比較 宮城県環境生活部震災廃棄物対策課 平成24年5月</p> <p>※ 見直し後県内焼却処理量には仙台市受け入れ10万トンを含む</p> <p>※ 女川町の東京抛出分は外部委託としているため、上記に入っていない。</p> <p>※ 再生利用及び最終処分の項目には、焼却処理の結果出てくる灰が重複しているため、総量が下記とは異なる。</p>												

# 仮設焼却炉建設数と処理能力

		日量(t)	基数	日量計(t)	年間処理能力
岩手県	宮古市	96	1	96	
	釜石市	109	1	109	
宮城県	東部	110	1	110	
		210	1	210	
	石巻	300	5	1500	
	南三陸	95	3	285	
	気仙沼	200	3	600	
		100	1	100	
	名取	95	2	190	
	岩沼	95	1	95	
		50	2	100	
	亘理	105	5	525	
仙台	山元	200	1	200	
		100	1	100	
	蒲生	90	1	90	
	粗浜	300	1	300	
	井土	90	1	90	
			<b>31</b>	4700	<b>× 300 = 141万t</b> (365日なら172万t)

# 宮城県：見直し後の現地処理の可能性

- 203.4万tを現地で処理できるかどうか
  - \* 仙台市が10万tを引き受けるので実質**193.4万t**
- 宮城県仮設焼却炉の処理能力=4015t/日
  - ・  $4015\text{t/日} \times 300 \times 1.5 = 180\text{万t}$
  - ・  $4015\text{t/日} \times 320 \times 1.5 = 193\text{万t}$
  - ・  $4015\text{t/日} \times 365 \times 1.5 = 220\text{万t}$
- 実際に現地では365日稼働
- 現地処理170.7万t→175.5万tの嘘
  - 仙台市の10万tが入っていない
  - 170.7万t→165.5万tに減**



# 岩手県受託分見直し後処理量

		瓦礫総量(万トン)			県内処理計画量(万トン)				広域処理希望量(万トン)		
		見直し前	見直し後	見直し量	見直し前	見直し後		見直し量	見直し前	見直し後	見直し量
						非業者(万トン)	県内業者(万トン)				
焼却・埋立	可燃物	72.8	63.4	9.4	78	19.4	28.7	29.9	3.0	6.3	▲ 3.3
・リサイクル	木くず	59.3	24.2	35.1	5	1.2	3.8	0.0	47.0	17.5	29.5
・復興資材	ふるい下分	0.0	16.4	▲ 16.4		0.0	16.1	▲ 16.1	0.0	0.3	▲ 0.3
	不燃物	44.1	104.5	▲ 60.4	44	6.4	1.4	36.2	7.0	89.0	▲ 82.0
	漁具・魚網	-	-	-		0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	▲ 5.4
	わら(畳)	1.0	1.4	▲ 0.4		0.8	0.0	▲ 0.8	0.0		0.0
	その他	7.7	13.8	▲ 6.1	292	7.5	0.0	284.5	0.0		0.0
再生利用・復旧	金属くず	73.4	24.6	48.8		19.0	0.0	▲ 19.0	0.0	0.0	0.0
	コンクリートがら	99.1	146.6	▲ 47.5		120.4	0.0	▲ 120.4	0.0	0.0	0.0
	津波堆積物	78.0	130.4	▲ 52.4		130.4	0.0	▲ 130.4	0.0	0.0	0.0
広域処理確定分									0.0	1.0	▲ 1.0
小計		435	525	▲ 90	419	305	50	64	57	120	▲ 63

参考資料：第4回岩手県災害廃棄物処理対策協議会 23年度の進捗状況・計画の改訂 岩手県廃棄物特別対策室 平成24年5月21日

# 災害廃棄物の内訳(岩手県)

埋戻し:復興資材(コンクリート・土砂)	171万トン
再利用(太平洋セメント)	80万トン
(三菱マテリアル)	2万トン
市町村焼却	44万トン
仮設焼却炉	8万トン
業者に転売(リサイクル)	73万トン
広域処理	57万トン
合計	435万トン

\* 1月岩手県よりヒアリング

# 宮城県広域処理の経緯

- 当初宮城県はゼネコン一括丸投げを想定  
→産廃立地自治体が受け入れ拒否

- 5月1日の宮城県の説明

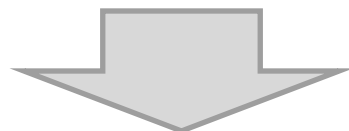
宮城県総受託量 986万8千

---

県内処理量 643万t ⇒ゼネコン委託

県外処理量 343万8千t ⇒広域処理

\* 契約は全量で行っているため、契約変更が必要



# 広域処理2ルートが存在

県内処理 ⇒ ゼネコン委託  
県外処理 ⇒ 宮城県

